



子どもへ渡す未来へのバトン

夢こども基金 ニュース

夢こども基金

No.14

2007/11/13

発行編集者 特定非営利活動法人 石川こども環境教育学習基金
発行責任者 代表理事 青山 幸司
〒921-8034 金沢市泉野町4丁目9番5号

TEL&FAX: 076-245-9450
URL <http://yumekodomo.yupapa.net/>
E-mail: yumekodomo@yupapa.net



浅野川でアユつかみとゴミ拾い



みんなで楽しくゴミ拾いする子どもたち

8月19日、KFCふれあいクラブは「浅野川周辺美化と鮎つかみ」(後援;金沢市、北国新聞他)を開催しました。(参加者;子ども320人、大人160人)

このイベントでは、初めに親子や友達と一緒に、浅野川の河川敷はもちろんのこと、会場周辺の道路や公園までをゆっくりとゴミ拾いして回ります。いつも、なにげなく通っているところのゴミをひろい、自分たちの生活空間をみんなできれいにすることを体験しました。

その後、学年別に分かれてアユつかみを行いました。ビショビショになるまで、何度も何度もアユを追いかける子どもたちの目は、お爺ちゃんやお父さんの時代と同じで、アユをつかめた子も、つかめなかった子も、みんなでアユの塩焼きやメッタ汁を味わい、川遊びを満喫していました。



アユつかみは大人も子どもも真剣です

みずすまし屋は大繁盛!

金沢エコライフくらぶは8月19日、アユつかみと同時に、みずすまし屋を出動させ、メッタ汁とアユの塩焼きで使ったレンタル食器を洗剤を使わないで洗ってもらう体験学習会を開催しました。

みずすまし屋は、古着布や川砂、炭を組み合わせた簡易ろ過装置で、イベントでの使い捨て食器を減らすため、参加者にレンタル食器を使ってもらい、食べた後にその場で洗ってもらうものです。

古着を切った布でお碗や皿の汚れを一度拭き取り、アクリルやフリースの布で磨きながら洗うと、食器はピカピカになるので、子どもたちは、洗剤を使わない食器洗いに驚いていました。



みずすましの仕組みを説明するスタッフ

子どもたちと一緒に、地域愛を育みながら水辺で遊び、環境負荷を減らすように工夫して、楽しく学ぶことで、環境教育・環境学習の姿はずいぶん進化してきました。無理をすることもなく、押し付けをする必要もありません。子どもたちが自ら考え、気付いてくれるのです。

このような催しは、関係者の熱意はもちろんですが、これを支えるボランティアや後援団体からの支援金、地域住民の理解で続いています。

今回、夢こども基金では、アユの購入費用や仮設トイレ、障害保険料の一部を支援させていただきましたが、(財)22世紀環境文化財団からも、アユの購入費やみずすまし屋の出動経費の一部をご支援いただいておりますことを報告させていただきます。

NPO 法人夢こども基金

「自然は友だち」エコキャンプ開催

タイムマシンクラブは8月18(土)~20(月)の3日間、旧上平小学校で2007エコキャンプを開催しました。

体育館でのごろ寝、校庭でのエコライフクッキング(野外炊飯)、水辺ウォッチング、おばあさんの知恵袋・昔の技術交流(竹細工)、きもだめし、夜話、花火などなど、たのしい思い出を作りました。

この活動は8回目、会場周辺の豊かな自然とのふれあい、地元方々との交流から自然を大切にすることを学んでいます。

今回は小学生から中学生までの子ども27人、大人5人が参加して行われましたが、上級生が年少者の面倒を見て、野外炊飯の火の扱いや野菜の切り方など、色々なことをこどもたち同士で教えあい、学んでいました。



食器を洗った後できれいになる排水を確認

子どもたちは、自分が使ったお皿とスプーンを洗うのですが、洗い方が分からず、とまどっている子どもも多く、生まれて初めて食器を洗うような手つきで、洗剤を使わず、水を大切に洗う方を上級生に教えてもらっていました。

また、3回目の「おもちゃは回る」では、子どもたちが、要らなくなったおもちゃを持ち寄り、金沢エコライフくらぶが開発した「かえっこパズル」のシステムで交換しました。

子どもたちの品定めをする目は厳しく、長い時間を掛けてじっくりお目当てのおもちゃを選んでいました。

こうして、じっくり吟味されて交換されたおもちゃは、新しい持ち主のもとで再び楽しい時間と喜びを与え、大切に使われてゆくものと思います。

なお、このような企画は、金沢市浅野町児童館でも行われましたが、北九州市、仙台市でもそれぞれ2つの児童館が参加して開催されています。

詳しい情報は、以下のホームページでご覧いただけます。

<http://www.npo-dondoko.net/>



上級生に野菜の切り方を教えてもらいました

NPO どんどこプロジェクトに参加

8月22日(水)、9月22日(土)の両日、金沢エコライフくらぶ、いしかわ水辺再生研究会は、金沢市三和児童館において、子どものための児童館とNPOの共同事業(主催:NPO法人日本NPOセンター、共催:(財)児童健全育成推進財団、協力:NPO法人いしかわ市民活動ネットワークセンター)に参加しました。

この事業は、地域の課題に主体的に取り組んできたNPOと、子どもの拠点として活動してきた児童館との連携によって、子どもたちが地域の課題に触れる機会を提供し、子どもたちと地域がともに気づき、学びあう環境を創出するために行われました。

三和児童館では、①自然は回る、②水は回る、③おもちゃは回る、④回る看板作りと環境をテーマに子どもたちが主体で企画・運営したプログラムが4回行われ、いしかわ水辺再生研究会が「発進みすすまし号」、金沢エコライフくらぶが「おもちゃ交換会」に協力しました。

2回目の「みすすまし号発進」では、コアメンバーの子どもたちがカレーライスを作り、参加した子どもたち全員で食べ、使ったレンタル食器を自分で洗い、水を汚さないで流すことを学びました。



おもちゃを交換する順番を待つ子どもたち

いしかわ環境フェア2007 に出展

8月25日、26日の両日、石川県産業展示館3号館において、「ふるさとの環境を守ろう、育てよう」、「MOTTA IN AIで止めよう地球温暖化」をテーマに、いしかわ環境フェア2007が開催されました。(主催：社団法人いしかわ環境パートナーシップ県民会議)

夢子ども基金では、昨年に引き続きパネル展示を行い、①基金の目的と事業、②基金のしくみ、③企業会員名、④登録団体の活動、⑤最近の活動支援について写真とパネルで説明させていただきました。



小さなブースでしたがパネルと写真を展示

また、隣接するブースでは、金沢エコライフくらぶが喫茶コーナーとみずすまし屋で出展し、環境にやさしい商品やリユース・リサイクル商品の展示販売、洗剤を使わない食器の洗い方の体験などを披露しました。

五平餅の喫茶コーナーは好評で、使った食器を自分で洗う体験型環境学習とセットでしたが、親子連れも含め、たくさんの来店がありました。

夢子ども基金では、できるだけ多くの方に来場いただき、基金の仕組みや活動をご理解いただけるよう、新しいパンフレットを用意して配布も行いましたが、反応が十分ではなかったようなので、来年は展示方法を見直し、再挑戦したいと考えています。



喫茶コーナーとみずすまし屋は盛況でした

手取川でハゼ釣りとおゴミ拾い



雨具を着てのゴミ拾いになりました

KFCふれあいクラブは、9月30日(日)白山市美川大橋周辺において、親子で参加するハゼ釣りとゴミ拾いを行いました。(共催：白山市、後援：美川ライオンズクラブ他)

毎年行われているこの活動ですが、今年は天気に恵まれず合羽を着ての開催となりました。参加した子どもたちは、大きなハゼを何匹も釣り上げていましたが、途中で雨が強くなってきたため、ゴミ拾いをしてから、天ぷらや協賛企業からのお菓子をもらって、早めの解散となりました。

10年以上続くこの活動に4年前から参加していますが、まちが良くなり、年々ゴミの量は減ってきています。継続して行われる地道な活動が自然環境と生活環境を改善していくことを強く感じました。

幸せの黄色いレシートキャンペーンに登録



夢子ども基金のBOXはこです

去る10月14日、夢子ども基金は、「幸せの黄色いレシートキャンペーン」助成事業により、株式会社マイカル御経塚サティ様より13,900円分の商品(事務用品)を贈呈されました。

この事業は、毎月11日にレジで発行する黄色いレシートを店舗周辺で活動する登録団体(福祉の増進、環境保全・環境学習の推進、街づくり、文化芸術の振興、子どもの健康と安全の増進の分野、15団体)の投函ボックスに投票してもらい、合計金額の1%分の商品を半年ごとに贈呈していただけるものです。

今年の3月から、金沢エコライフくらぶと共に登録させていただいており、今回1回目の商品贈呈を受けました。

発祥の地にみずすまし屋が出勤

金沢エコライフくらは 10月14日、金沢市民芸術村において「もったいないフェスタ金沢 2007」にみずすまし屋を出動させました。(主催：金沢市)

当日は天候に恵まれ、「金沢子どもフェスティバル」「児童館フェスティバル」が同時開催されたため、大勢の家族連れが来場しました。焼き鳥、うどんなどの模擬店で使用するレンタル食器が、どんどんみずすまし屋に回ってきましたが、メインスタッフやボランティアの方々のお陰で、無事作業を終了することができました。

みずすまし屋が生まれたのは、10年ほど前に金沢市民芸術村で開催されていたリサイクル・フェアです。イベントの後に使い捨て食器の山を見て、前身の金沢エコライフ事業実行委員会のメンバーが考え出したシステムです。

自分たちが使う食器を持ち寄り、洗い場を来場者の見える場所に移動して、ゴミを出さない工夫をしてゆきました。

その後、水処理装置の試行錯誤を繰り返し、現在のシステムに落ち着きましたが、今回は発祥の地で思う存分にその力を発揮できたことで、メンバーは自信を深め、当日の秋空のように清々しい笑顔で片付け作業を終えました。

なお、みずすまし屋の生い立ちや活動状況は、金沢エコライフくらのブログでご覧いただけます。

<http://ecoclb.exblog.jp/i4/>



洗う人、見る人、みずすまし屋にはいつも人だかりが

●企業会員

企業会員名	(株)アルテ島田、石川総合管理(株)、税理士法人泉が丘会計センター、(株)植宗園、(株)金沢丸善、(株)カワチオート、(株)グルーヴィ、(株)ジャテック、(株)新木商店、竹中建築計画工房、(株)テレビ金沢、(株)プラスト、(有)プラントエンジニアリング 増田事務所、(株)北陸経営、(株)ミルコン、(有)柚木草花園 (16社)
-------	---

【編集後記】夏から秋にかけてボランティア活動やイベントが目白押しです。コアメンバーにボランティア、行政の担当者、スタッフの皆さんは本番までは気を抜けません。息つく間もなく、催しが終わると直ぐに片付けに入り、あっという間に一日が終わってしまいます。ニュースレターでは、子どもたちの生き生きした姿やボランティアの方々の笑顔をうまく伝えることができればと思います。また、毎年行っている活動も工夫が見られ内容が変化しているのですが、その辺の状況をうまく伝えられるように努力してゆきたいです。(事務局)

よくばり天狗で商店街を活性化

大杉ミュージカルシアターは、10月6日(土)から14日(日)に小松市大杉中町劇場において第13回定期公演「よくばり天狗Ⅲ・天狗惑星の大冒険」を行いました。(芸術文化振興基金助成事業)

公演に先立つ9月上旬からは、主人公の宇宙天狗の衣装を着せた置物を小松市内の商店街など117箇所に1個ずつ展示し、ユーモラスな衣装と表情の天狗が市民の笑いを集めました。

これらの置物は、6月に行った舞台衣装のデザインコンテストに応募してきたものを、市販の置物に再現したもので、約130個を作り中心商店街や公共施設に展示し、市民の注目を集め、地域の活性化につなげることができました。(新聞記事より)



商店街に天狗の置物 小松・劇団 OMT 展示

小松市大杉町を拠点に活動する市民劇団「大杉ミュージカルシアター」(OMT)は、十月六日から始まる定期公演「よくばり天狗Ⅲ」の主人公、宇宙天狗の衣装を着せた置物を市内の商店街を百七十七カ所に一個ずつ展示し、ユーモラスな表情が訪れた人の笑いを誘っている。

置物は、六月に行った舞台衣装のデザインコンテストに寄せられた七口や踊り子などの愛した天狗を、市販されている高さ十五センチの置物にペンキや布、ビニール紙を使って再現した。

約百十個を作り、土居原町、三日月町などの中心商店街や公共施設などに十月下旬まで並べられるほか、一部を市内の交流姉妹都市であるラジリスやイタリヤに送った。

ガート・T・ウ・エスタハット代表(右)「大杉町Ⅲは、すべて真鍮天狗像を見せ歩くことで商店街の活性化にも役立てられたい」と話した。

置物を見せるガートさん 北國新聞記事(9月6日)

なお「よくばり天狗Ⅰ」(1997,2003)は天狗がなぜ石になったかという話、「よくばり天狗Ⅱ」(2004)では、石になった天狗が生き返りましたが、最後には鏡の中に閉じ込められてしまうものでした。

今回の「よくばり天狗Ⅲ・天狗惑星の大冒険」はその天狗が天狗惑星という、ピエロのような幸せな宇宙天狗が住んでいる星に行くものです。歯切れのよいテンポでアクション満載のコメディミュージカルで、テーマは「笑いの力」です。

今後、2月17日(日)に富山県射水市大島絵本館での上演予定がありますので、詳しくはホームページもしくは、大杉ミュージカルシアター(予約電話：0761-46-1827)でご確認ください。

<http://www.osugimusaltheatre.com/>

(平成19年10月末現在)